

経営比較分析表（令和4年度決算）

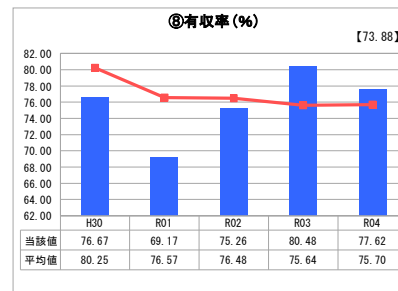
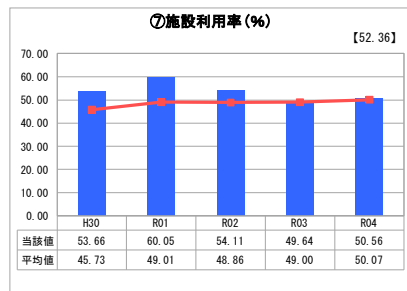
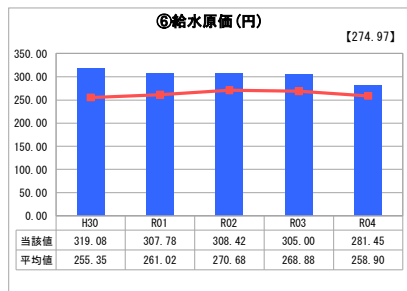
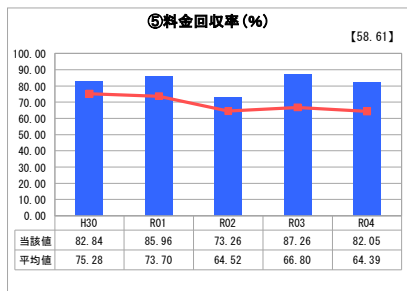
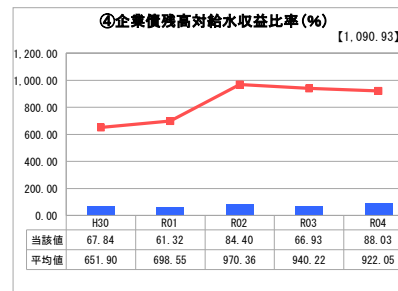
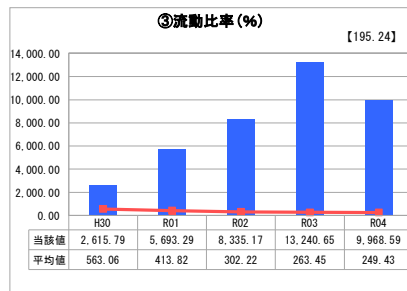
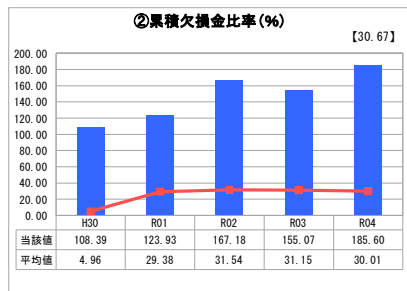
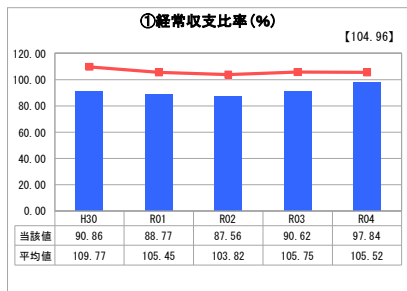
北海道 秩父別町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	88.77	98.55	5,594	

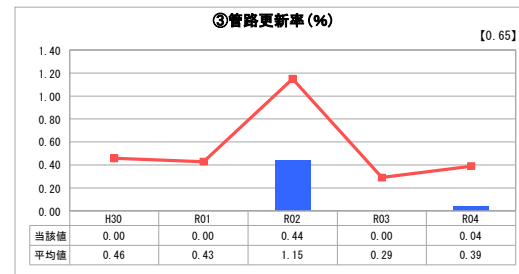
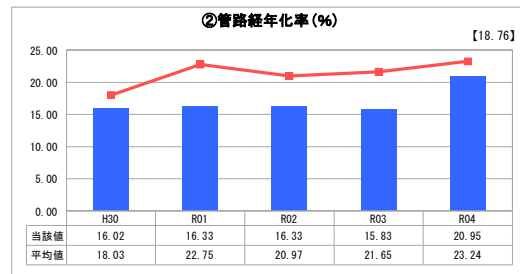
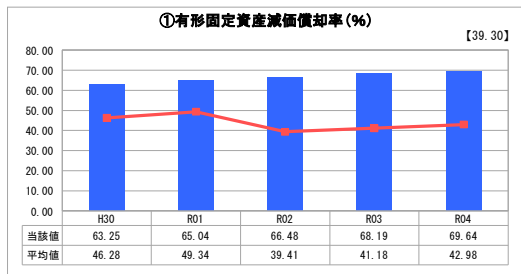
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
2,297	47.18	48.69
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,244	35.00	64.11

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、前年と比べ若干改善したものの、依然として赤字となっており、類似団体と比較しても低い数値を示しています。
また、累積欠損金比率も類似団体と比べ非常に高く、増加傾向にあります。これは借入や補助を受けずに工事を施工したこと、漏水による修繕費用の増加が主な原因と考えられます。
料金回収率は、類似団体と比べると高い数値を示していますが、料金収入だけでは賄えていない状況であるため、有収率の向上及び料金回収率の上昇のため積極的な取り組みが必要と考えています。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率と管路経年化率は、増加傾向にあり、施設・設備の老朽化が進んでいることを示しています。
法定耐用年数を経過した水道管は現在20.95%となっていますが、2028年頃には第2次拡張事業で建設された水道管が一気に法定耐用年数を超え、全体の70%を超える見通しです。また、他の電気計装器類も経年劣化が進行しています。

全体総括

人口の減少と高齢化により今後料金収入の増加は見込めない状況にあります。これに対し、老朽化した水道管や施設の更新等には莫大な経費を要します。
住民のライフラインとして安定した水の供給を図るため、中長期的な視野に立った計画的・効率的な水道施設の改修や更新、維持管理、資金確保、適正な水道料金のあり方について検討していきます。